

科目	カウンセリング	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	河村陽子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解する内容とする。 本授業は福祉学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	人間関係の形成のためのコミュニケーションの基礎的な知識を身につけ、こころの介護士として援助的なコミュニケーションが実践できるようになる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している、人間関係の形成のためのコミュニケーションの基礎的な知識を測るために、確認テストを実施して評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	こころの介護士としてのカウンセリングマインド	こころの介護士とは何かについて調べておく	
2.	人間関係の形成	自己覚知とは何か復習する	
3.	コミュニケーションの基礎	コミュニケーションの目的と意義について復習する	
4.	コミュニケーションを促す環境	パーソナルスペースについて復習する	
5.	言語コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	自分のコミュニケーションの癖を考えておく	
6.	心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義	カウンセリングのイメージについて考えておく	
7.	心理学的支援を踏まえたコミュニケーション技法 1 傾聴	テキストの該当箇所を読む	
8.	心理学的支援を踏まえたコミュニケーション技法 2 共感的理解	テキストの該当箇所を読む	
9.	心理学的支援を踏まえたコミュニケーション技法 3 受容	テキストの該当箇所を読む	
10.	心理学的支援を踏まえたコミュニケーション 1 個人心理療法	テキストの該当箇所を読む	
11.	心理学的支援を踏まえたコミュニケーション 2 グループ心理療法	配布プリントを復習する	
12.	援助的なコミュニケーション 1 アサーティブネス	アサーティブな自己表現について復習する	
13.	援助的なコミュニケーション 2 パリテーションケア	配布プリントを復習する	
14.	援助的なコミュニケーション 3 パーソンセンタードケアとユマニチュード	配布プリントを復習する	
15.	まとめ	ノートをまとめる	
教科書	テキスト：最新介護福祉士養成講座1 『人間の理解』 中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度 (20 %) 小テスト (30 %) 授業内課題 (50 %)		
特記すべき事項	介護福祉士受験資格必修 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	研究室に聞きに行く		

科 目	カウセリング	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	河村陽子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を理解する内容とする。 本授業は福祉学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	チームマネジメントの基礎的な知識を身につけることができる。生涯、自己研鑽していく姿勢を身につけ、介護福祉士としてのキャリアデザインを描くことができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している、チームマネジメントの基礎的な知識を測るために、確認テストを実施して評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	組織におけるコミュニケーション	テキストの該当箇所を読む	
2 .	ヒューマンサービスにおけるチームの意義	テキストの該当箇所を読む	
3 .	介護現場におけるチームマネジメント	テキストの該当箇所を読む	
4 .	介護福祉士に期待されるチームリーダーとは	理想のリーダーについて考える	
5 .	ケアを展開するためのチームマネジメント	テキストの該当箇所を読む	
6 .	リーダーシップとフォロワーシップ	理想のリーダーについて考える	
7 .	組織とコンプライアンスの遵守	テキストの該当箇所を読む	
8 .	チームの対立や危機に対するマネジメント	配布プリントを復習しておく	
9 .	ストレスマネジメント 組織におけるストレスマネジメント	テキストの該当箇所を読む	
10 .	ストレスマネジメント 人材育成におけるストレスマネジメント	配布プリントを復習しておく	
11 .	介護福祉士としてのリフレクション～ティーチングとコーチング～	自己研鑽のための研修を事前に調べておく	
12 .	介護福祉士としてのキャリアパスとキャリアデザイン	自らのキャリアデザインを描く	
13 .	人材育成におけるスーパービジョン 1 理論	テキストの該当箇所を読む	
14 .	人材育成におけるスーパービジョン 2 実践	配布プリントを復習しておく	
15 .	まとめ	ノートをまとめる	
教科書	テキスト：最新介護福祉士養成講座1 『人間の理解』 中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度 (20 %) 小テスト (30 %) 授業内課題 (50 %)		
特記すべき事項	臨床心理士として11年の実務経験。 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	研究室に聞きに行く。		

科目	仏教の人間観	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	青木 玲	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<p>本学の「建学の精神」に基づいて、人間とは何か、自分とは何かを、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の生涯と教えから学び、現代社会の基本的問題も踏まえつつ、自分や社会を見つめる感性や現代社会を生きる人間としての生き方について考える力を養う内容。 本授業は福祉学科の学習成果(3)に対応する。</p>		
到達目標	<p>相手にとって何が最善の利益かを考え、自身に問うことができる。(思考力) 相手の考えや価値観を受け止めることができる。(多様性) 仏教の思想を通して人間について学び、考えることを通して、介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養うことができる。</p>		
学習成果の評価基準	授業後の感想文提出を「授業内課題」の評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	「仏教」とは	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
2.	「人間」とは何か(1) ビデオ学習	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
3.	「人間」とは何か(2) 親鸞聖人に学ぶ	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
4.	「仏教の人間観」の振り返り(1) 個人ワーク	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
5.	「仏教の人間観」の振り返り(2) レポート作成	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
6.	「仏教の人間観」の振り返り(3) グループワーク	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
7.	「逆境」について	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
8.	「われら」について	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
9.	これまでのまとめ	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
10.	「自分の姿」を考える	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
11.	「苦悩」について	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
12.	「人間関係」について	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
13.	「報恩」とは(1) 報恩講について学ぶ	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
14.	「報恩」とは(2) 報恩ということ	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
15.	まとめ	予習：テキストを読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
教科書	『親鸞 生涯と教え』		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(50%) 授業内課題(50%)		
特記すべき事項	各授業において、予習2時間、復習2時間。		
質問・相談等の受付			

科目	認識論	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	吉元信暁	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	世界の哲学・認識論、および仏教の思想に触れ、介護従事者として様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重しあいながら共生する社会の理解や、国際的な視野を養う。 本授業は福祉学科の学習成果(6)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 哲学者の思想に触れ、自らの問いを深めることができる。(思考力) ・ 各自の問いについての対話を通して、地域のリーダーとしての自覚を培うことができる。(主体性) ・ 以上の学びを通して、多様な価値観を受けとめることができる。(多様性) 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思考力の達成度を測るために、小レポートを実施して評価する。 ・ 主体性の達成度を測るために、毎回の振り返りを実施して評価する。 ・ 多様性の達成度を測るために、期末レポートを実施して評価する。 		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習	
		予習・復習	
1.	認識論とは ガイダンス シラバスの確認	シラバスを読む・ガイダンスの内容を振り返る	
2.	哲学と認識論 哲学の意義	哲学の意義について考える・ノートを振り返り整理する	
3.	人生観について 「観」と生き方	人生観について考える・ノートを振り返り整理する	
4.	考えるということ 考えるために必要なこと 小レポート	考えるということについて考える・ノートを振り返り整理する	
5.	問いの出所	問いの出所について考える・ノートを振り返り整理する	
6.	無知の知(1) 資料を読んで考える	無知の知について考える・ノートを振り返り整理する	
7.	無知の知(2) 小レポート	無知の知について考える・ノートを振り返り整理する	
8.	釈尊とは	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
9.	天人の生活	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
10.	唯我独尊の教え 小レポート	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
11.	釈尊の課題 四門出遊	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
12.	降魔 成道	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
13.	初転法輪 対機説法 小レポート	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
14.	入滅 自灯明、法灯明	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
15.	授業内容についての振り返り 期末レポートに向けて	ノートを振り返り整理する・期末レポート作成準備	
教科書	『釈尊 生涯と教え』 その他、適宜、プリントを配布する。		
参考書	野矢茂樹『はじめて考えるときのように』、池田晶子『14歳からの哲学』『死ぬことより考えること』、加藤徹『漢文力』、『ソクラテスの弁明』、門脇健『哲学入門 死ぬのは僕らだ!』		
学習成果の評価方法	「毎回の振り返り」(50%)、「小レポート・期末レポート」(50%)		
特記すべき事項	各授業において、予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業後、研究室、九州大谷Online等、いずれの方法も可。		

科 目	介護の基本	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	村上有希	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	人の生活を支援するとう視点を大切に、介護を必要とする人とはどのような人か、そして介護を必要とする人を支えるしくみはどのようなものがあるかを理解し、専門職として必要な知識や思考を学習する。また介護福祉士としての多職種連携における意義や、役割・機能も学習する。 本授業は福祉学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	介護福祉が必要となる人とその人の生活と環境を学習し考えることで、介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職として望ましい態度を養うことができる。		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・その人らしさ、生活ニーズ、生活を支えるフォーマルサービス・インフォーマルサービス、地域連携・多職種連携・協働が理解できる。 ・授業で積極的に質問やグループワークができる。 		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	生活とは	テキストを読んでおく	
2 .	私たちの生活	テキストを読んでおく	
3 .	高齢者の生活	テキストを読んでおく	
4 .	障害者の生活	テキストを読んでおく	
5 .	家族介護者の生活	テキストを読んでおく	
6 .	「その人らしさ」とは何か	テキストを読んでおく	
7 .	「その人らしさ」の背景と介護福祉における活用	テキストを読んでおく	
8 .	「生活ニーズ」とは	テキストを読んでおく	
9 .	「生活のしづらさ」とは	テキストを読んでおく	
10 .	生活を支えるフォーマルサービス	テキストを読んでおく	
11 .	生活を支えるインフォーマルサービス	テキストを読んでおく	
12 .	介護福祉士に求められる支援の視点	テキストを読んでおく	
13 .	地域連携・多職種連携・協働について	テキストを読んでおく	
14 .	地域連携・多職種連携・協働に求められる基本的な能力	テキストを読んでおく	
15 .	まとめ	テキストを読んでおく	
教科書	最新介護福祉士養成講座3『介護の基本』中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度 (20 %) 授業内課題 (20 %) 定期試験 (60 %)		
特記すべき事項	担当者は、介護福祉士として5.5年の実務経験を有する。 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	メールにて随時受付 (murakami@kyushuotani.online)		

科目	介護の基本	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	塚本真由美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	多職種協働による介護を実践するために、介護におけるリスクマネジメントの必要性や介護従事者の自身の安全について学び、介護福祉士の専門職としての能力と態度を養っていく。 本授業は福祉学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	介護福祉士に求められる役割と機能を理解し専門職としての態度を身につけることができる。 多職種協働による介護を実践するため保健・医療・福祉の相互性を理解しその活用法を身につける。 介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解すると共に安全確保のための基本的な知識や事故への対応を理解することができる。 自身が心身ともに健康に介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解することができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している専門職としての態度を身につけることを測るため、授業内課題及び定期試験の実施にて評価とする。 また、「介護の基本」への取り組み姿勢（聞く、話す、読む、書く）を授業態度の評価とする。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	チームワーク力と介護支援、チームビルディング	チームワーク力について考えておく	
2.	介護はチームプラン（保健・医療・福祉に関する専門職）と共通理解	チームプランと共通理解について学習しておく	
3.	チームリーダーとメンバーの役割、共通理解・チームワーク・情報交換	共通理解と阻害因子について考えておく	
4.	カンファレンスと介護	実習 記録「カンファレンス用紙」を確認しておく	
5.	介護における安全の確保とリスクマネジメント：介護における安全の確保	ヒヤリハット・アクシデントの現状について調べておく	
6.	介護における安全の確保とリスクマネジメント：リスクマネジメントとは	身体拘束について学習しておく	
7.	介護における安全の確保とリスクマネジメント：感染症対策 感染に関する正しい知識	標準予防策について学習しておく	
8.	介護における安全の確保とリスクマネジメント：感染症対策 感染発症時の対応と多職種との連携	主な感染経路と感染源について学習しておく	
9.	介護における安全の確保とリスクマネジメント：感染症対策 感染発症時の対応と行政報告・関係医療機関との連携	主な感染経路と感染源について学習しておく	
10.	介護における安全の確保とリスクマネジメント：高齢者虐待	高齢者虐待について調べておく	
11.	介護を地域で支えること	地域密着型の社会資源について調べておく	
12.	介護従事者の安全 健康管理の意義と目的	労働基準法、労働安全衛生法について調べておく	
13.	介護従事者の安全 こころの健康管理	自身のストレス状況について認識する	
14.	介護従事者の安全 身体の健康管理	腰痛の原因について調べておく	
15.	介護従事者の安全 労働環境の整備	介護実習施設を例に挙げP D C A サイクルを用い考える	
教科書	最新介護福祉士養成講座4 『介護の基本』 中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度（10%） 授業内課題（20%） 定期試験（70%）		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	研究室にて随時受付		

科 目	介護と福祉	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	中島 航	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護を必要とする人の個別性と多様性を学習することによって、そこに必要とされる介護の基礎的な知識を習得する。 本授業は福祉学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	介護を必要とする人を深く理解することで介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養うことができる。		
学習成果の 評価基準	授業の理解度について、適宜、小テストを実施して評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	介護を必要とする人とは	テキストを読む	
2 .	介護を必要とする様々な場面	テキストを読む	
3 .	生活とは	テキストを読む	
4 .	高齢者の理解	テキストを読む	
5 .	高齢者の生活のニーズ	テキストを読む	
6 .	高齢者を支える制度	テキストを読む	
7 .	高齢者を支えるしくみ	テキストを読む	
8 .	ケアプラン、ケアマネジメントの流れとしくみ	テキストを読む	
9 .	介護サービスの活用(1) 事例を用いて介護サービスを学ぶ	テキストを読む	
10 .	介護サービスの活用(2) 事例を用いて在宅サービスを学ぶ	テキストを読む	
11 .	障害のある人の理解	テキストを読む	
12 .	障害のある人の生活のニーズ	テキストを読む	
13 .	障害のある人を支える制度	テキストを読む	
14 .	障害のある人を支えるしくみ	テキストを読む	
15 .	まとめ	今までの振り返りをする	
教科書	テキスト：最新 介護福祉士養成講座 4 『介護の基本』 中央法規		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度(30%)、小テスト(70%)		
特記すべき 事項	介護福祉士受験資格必修 実務経験：担当者は高齢者福祉施設における看取り支援について11年の実務経験を有しています		
質問・相談等 の受付			

科目	介護と相談援助	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	中村秀一	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	本講義では、相談援助の技法等の学びを通し、介護福祉士に求められる倫理を学ぶとともに、介護を必要とする人の理解を深めることで専門職としての態度を学ぶ。また、介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルなサービスを理解し、保健、医療、福祉に関する多職種の役割と機能について学び、介護福祉士としての専門性とは何かを考えることができるように講義を展開していく。 本授業は福祉学科の学習成果(6)に対応する。		
到達目標	ソーシャルワークにおける相談援助の学びや協働すべき職種の役割等の学習を通して、遵守すべき倫理ををはじめ、介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての適切な態度を養うことができる。また、介護実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得することができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している倫理をはじめ、介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての適切な態度や介護の基礎的な知識・技術を習得することできる達成度を測るために、授業内課題並びに試験を実施し評価する。また、予習復習による理解度を図るためにも授業内での質問などの積極的授業態度をもって評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ソーシャルワークにおける支援とは 介護福祉士と社会福祉援助との関係について	人の社会化・再社会化とは何か事前に調べておく	
2.	介護福祉士における相談援助活動の意義と専門性 介護福祉士に求められる職業倫理の意義・目的について	援助と支援の違いについて事前に調べておく	
3.	介護福祉士における相談援助活動の意義と専門性 介護福祉士にかかわる法令とその遵守について	介護福祉士関係法から遵守すべき事項を一読しておく	
4.	介護福祉士における相談援助活動の意義と専門性 日本介護福祉士倫理綱領の理解について	日本介護福祉士倫理綱領を一読しておく	
5.	対人援助の過程と倫理性 ケースワークの原則による対人支援の理解と利用者主体について考える	バイステックの7つの基本原則について予習する	
6.	対人援助の過程と倫理性 ケースワークの過程による事例から倫理性を学ぶ	自己覚知する意味を自分なりに整理しておくこと	
7.	対人援助の過程と倫理性 他職種における倫理的事項を学ぶ	保健・医療・福祉分野の専門職の倫理事項を整理する	
8.	他の福祉職種の機能と役割から介護福祉士の役割、機能を学ぶ 医療・福祉関連施設における専門職種の役割と機能	医療・福祉関連施設の福祉職種の役割と機能の整理	
9.	他の福祉職種の機能と役割から介護福祉士の役割、機能を学ぶ 地域・在宅福祉における専門職種の役割と機能	地域、在宅福祉での福祉職種の役割と機能を整理	
10.	協働すべき多職種の役割と機能 保健・医療・福祉の関係職種の機能役割、連携について	保健・医療・福祉の職種の役割と機能を調べておく	
11.	地域包括支援センターの相談援助活動とその専門性 保健師等によるマネジメント体制とフォーマルサービス	介護支援サービスの計画の概要と保健師の役割を予習	
12.	市町村社会福祉協議会の相談援助活動とその専門性 生活支援コーディネーター等による介護サービスや地域連携とインフォーマルサービス	生活支援コーディネーターの役割と機能の整理復習	
13.	民生委員・児童委員や福祉員等の地域相談援助活動者とのかかわり 民生委員や自治会等による介護予防や災害時等の連携とインフォーマルサービス	地域支援体制の意義と介護福祉士の関係性を整理復習	
14.	地域における支援の意義と介護福祉士の専門性 チームアプローチの意義と生活を支える仕組みにどのように関わるか	地域と介護チームアプローチの意義と目的を整理復習	
15.	人の生活を支援する介護福祉士の専門職とは何かを考える(まとめ)	エンパワメント支援の意義について予習しておく	
教科書	空閑浩人編著『ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房		
参考書	必要に応じてプリントを配布します。		
学習成果の評価方法	授業内課題(30%)、定期試験(70%)、単元ごとに、復習問題を実施し課題のフィードバックを行います。		
特記すべき事項	福岡県社会福祉協議会勤務(昭和60年～平成13年12月) 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問・相談は、研究室で受け付けます。ただし、簡易な質問であれば、研究室に限らず随時対応します。		

科 目	コミュニケーション技術	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	井形美子・中村桂子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	聴覚・言語障害のある人との、障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容とする。 本授業は福祉学科の学習成果(5)に対応する。		
到達目標	実践介護に必要な、手話によるコミュニケーションができるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業での介護ロールプレイに積極的に参加する(1割) 聴覚・言語障がいのある人についての理解度ををはかるために定期試験する(6割) 手話で自己紹介する(3割)		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	手話を効果的に学ぶために・授業の際に必要な挨拶表現	「見ることば」としての手話を理解する	
2 .	手話と聴覚・言語障がいのある人・指文字表現	聞こえない人と聞こえる人の名称(呼び名)の意味を理解する	
3 .	聴覚・言語障がいのある子どもの教育・数字表現	聴覚・言語障がいのある子どものための教育における教育方針を知る	
4 .	聴覚・言語障がいのある人の生活上の不便な点・自己紹介・挨拶表現	聞こえない生活で感じる不便さを知る	
5 .	聴覚・言語障がいのある人の職業・人間関係表現	聞こえない人の職業分野の問題点、職場で感じる不便さを知る	
6 .	聴覚・言語障がいのある人への情報保障・年月・日時表現	聞こえない人の生活支援に関する情報保障についてを知る	
7 .	聴覚・言語障がいのある人とのコミュニケーション保障・場所表現	手話技術者の養成、手話サークル成立、手話通訳資格・活動についてを知る	
8 .	「わたしの大切な家族」視聴・聴覚障がいのある人の生活について	聞こえない生活と聞こえる生活との違いや、工夫している点を理解する	
9 .	聴覚に障害が生じる仕組み・仕事表現	視覚的に情報をとらえる器具があることを知り、耳の構造と補装具についてを学ぶ	
10 .	手話の歴史・主な名詞表現	起源、移り変り、地域による違いと標準化への取り組みを学ぶ	
11 .	手話単語の成り立ち・主な名詞表現	日本語の意味などの組み合わせから成り立っていることを理解する	
12 .	聴覚・言語障がいのある人と接する際の心構え 自己紹介表現 説明	聴覚・言語障がいのある人と接する際の心構えについて考え理解する	
13 .	自己紹介表現 練習と発表	習得した手話をスムーズに表現できる(第1段階)	
14 .	自己紹介表現 発表	習得した手話をスムーズに表現できる(第2段階)	
15 .	自己紹介表現評価	習得した手話をスムーズに表現できる(第3段階)	
教科書	『新 手話ハンドブック』三省堂 必要に応じプリント配布		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(10%) 定期試験(60%) 授業内発表(30%)		
特記すべき 事項	介護福祉士受験資格必修 手話表現する際、マウスシールドを着用する		
質問・相談等 の 受 付	必要に応じ受付する		

科目	生活援助		開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	山下純子		授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	食生活から疾病予防や改善を考えたり、自立支援を行うことでQOLの向上を目指す機会となる。生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。 本授業は福祉学科の学習成果(1)に対応する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・尊厳の保持の観点から、利用者の状態に応じた食事の形態を考え、栄養・食材・安全性に配慮した調理について理解し、実践に近づける。 ・介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。 			
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標の達成度を測る為に確認テスト、課題レポートを実施し評価する。 ・授業での積極的なプレゼンテーションを「受講態度」の評価とする。 ・国家試験に備え、定期試験においても7割以上の解答ができる。 			
	授業計画(授業内容)			授業時間外学習 予習・復習
1.	自立に向けた食事の意義と目的			食事の社会・文化的、心理的、身体的意義と目的について復習する
2.	自立に向けた家事支援の基本となる知識と技術	調理の介助手順及び留意点と根拠		<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当箇所を読む ・課題プリント
3.	自立に向けた家事支援の基本となる知識と技術	嚥下食や治療食の作り方		食べやすい食材とはどのようなものかを復習する
4.	自立に向けた家事支援の基本となる知識と技術	食品の保存と管理方法		<ul style="list-style-type: none"> ・消費期限と賞味期限の違いを理解する ・課題プリント
5.	自立に向けた食事介護の視点	食欲・おいしさを感じるしくみ		テキストの該当箇所を読む
6.	自立に向けた食事介護の視点	楽しい食事のための環境づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当箇所を読む ・課題プリント
7.	自立に向けた食事介護の視点	利用者の状態に合わせた食事形態		とろみの種類について復習する
8.	食事介護の基本となる知識と技術	介護の基本原則にのっとった食事の介護		<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当箇所を読む ・課題プリント
9.	食事介護の基本となる知識と技術	食事を摂る姿勢		正しい食事姿勢について復習する
10.	食事介護の基本となる知識と技術	感染症への対応		<ul style="list-style-type: none"> ・唾液腺マッサージについて復習する ・課題プリント
11.	対象者の状況に応じた食事介助の留意点	食卓で行う食事介助の手順及び留意点と根拠		テキストの該当箇所を読む
12.	対象者の状況に応じた食事介助の留意点 と根拠	ベッド上で行う食事介助の手順及び留意点と根拠		<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当箇所を読む ・課題プリント
13.	対象者の状況に応じた食事介助の留意点	誤嚥予防のための支援		嚥下体操について復習する
14.	食事の介護における多職種との連携の必要性			<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当箇所を読む ・課題プリント
15.	食事の介護における多職種との連携の実践			テキストの該当箇所を読む
教科書	最新介護福祉士養成講座6『生活支援技術』・最新介護福祉士養成講座7『生活支援技術』中央法規 『食品成分表』大修館書店			
参考書	『介護福祉士のためのクッキング』理工学社 『在宅介護の食事』朱鷺出版			
学習成果の評価方法	受講態度(20%) レポート(10%) 定期試験(40%) その他【到達度確認テスト】(30%) ・到達度確認テスト実施後、授業でフィードバックします			
特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養・食事についての授業では、将来を見据え自身の食生活習慣を考える機会として欲しいです ・介護福祉士受験資格必修 			
質問・相談等の受付	授業後、口答或いは書面で			

科 目	日常生活援助	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	中野清隆	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	介護ロボットを含め、福祉用具を活用する意義や目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する内容とする。さらに、介護中の応急手当や災害発生時の生活支援についての学習も行う。本授業は福祉学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	・福祉用具の意義と活用を学習することを通して、介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得し、応急手当や災害発生時など、介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得することができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している福祉用具の意義と活用を学習することを通して、介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得し、応急手当や災害発生時など、介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得することができる達成度を測るために、授業内課題、演習等で到達度確認を実施し評価する。また、授業内での積極的な取り組み(質問等)などを受講態度の評価とする。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)		授業時間外学習 予習・復習
1 .	福祉用具活用の意義と目的 社会参加、外出機会の拡大、快適性効率性、介護者負担の軽減		テキストの該当箇所を読む
2 .	自立に向けた福祉用具活用の視点 自己実現と福祉用具		テキストの該当箇所を読む
3 .	自立に向けた福祉用具活用の視点 福祉用具が活用できるための環境整備		テキストの該当箇所を読む
4 .	自立に向けた福祉用具活用の視点 個人と用具のフィッティング、モニタリング		テキストの該当箇所を読む
5 .	自立に向けた福祉用具活用の視点 福祉機器利用時のリスクとリスクマネジメント		テキストの該当箇所を読む
6 .	適切な福祉用具の選択の知識と留意点 福祉用具の種類と制度の理解 介護保険、障害者総合支援法によるサービス		テキストの該当箇所を読む
7 .	適切な福祉用具の選択の知識と留意点 コミュニケーション支援機器の活用		テキストの該当箇所を読む
8 .	適切な福祉用具の選択の知識と留意点 移動支援機器の活用		テキストの該当箇所を読む
9 .	適切な福祉用具の選択の知識と留意点 その他福祉用具・介護ロボットなど		テキストの該当箇所を読む
10 .	今後の福祉機器とICTの広がり ICTの理解と活用、展望		プリントを読む
11 .	応急手当の知識と技術 応急手当とは(想定される事故と予防の視点、目的)		テキストの該当箇所を読む
12 .	応急手当の知識と技術 応急手当の実際(外傷、骨折、窒息、熱傷)		テキストの該当箇所を読む
13 .	災害時における生活支援 生活支援の必然性とその重要性		テキストの該当箇所を読む
14 .	災害時における生活支援 現場の状況把握と生活支援		テキストの該当箇所を読む
15 .	災害時における生活支援 介護福祉士としての支援のあり方		テキストの該当箇所を読む
教科書	最新介護福祉士養成講座6 『生活支援技術』中央法規		
参考書	必要に応じプリント配布		
学習成果の評価方法	受講態度 (20 %) 授業内課題 (20 %) その他【 演習 】 (60 %)		
特記すべき事項	「担当者は介護福祉士として23年の実務経験を有しています」 介護福祉士受験資格必修		
質問・相談等の受付			

科 目	日常生活援助	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	中野清隆・太田黒嗣実	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	障害に応じた生活支援を行うに際し、必要な障害や疾病に関する基礎的な知識の上に、生活上の困りごとにどのようにかわるのかを事例等を通して考える講義である。このことで、対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得し、また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける内容とする。 本授業は福祉学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる達成度を測るために、授業内課題、演習等で到達度確認を実施し評価する。また、授業内での積極的な取り組み(質問等)などを受講態度の評価とする。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	テキストの該当箇所を読む	
2 .	障害に応じた生活支援技術 肢体不自由に応じた介護	テキストの該当箇所を読む	
3 .	障害に応じた生活支援技術 視覚障害に応じた介護	テキストの該当箇所を読む	
4 .	障害に応じた生活支援技術 聴覚・言語障害・重複障害(盲ろう)に応じた介護	テキストの該当箇所を読む	
5 .	障害に応じた生活支援技術 【内部障害】 心臓・呼吸器に応じた介護	テキストの該当箇所を読む	
6 .	障害に応じた生活支援技術 【内部障害】 腎機能・膀胱・直腸・小腸機能障害に応じた介護	テキストの該当箇所を読む	
7 .	障害に応じた生活支援技術 【内部障害】 免疫機能障害・肝機能障害に応じた介護	テキストの該当箇所を読む	
8 .	障害に応じた生活支援技術 重症心身障害に応じた介護	テキストの該当箇所を読む	
9 .	障害に応じた生活支援技術 知的障害に応じた介護	テキストの該当箇所を読む	
10 .	障害に応じた生活支援技術 精神障害に応じた介護	テキストの該当箇所を読む	
11 .	障害に応じた生活支援技術 高次脳機能障害に応じた介護	テキストの該当箇所を読む	
12 .	障害に応じた生活支援技術 発達障害に応じた介護	テキストの該当箇所を読む	
13 .	障害に応じた生活支援技術 【難病】 筋萎縮性側索硬化症(ALS)パーキンソン病に応じた介護	テキストの該当箇所を読む	
14 .	障害に応じた生活支援技術 【難病】 悪性関節リウマチ・筋ジストロフィーに応じた介護	テキストの該当箇所を読む	
15 .	まとめ	介護福祉士の行う自立支援とは何かをまとめておく	
教科書	最新介護福祉士養成講座8『生活支援技術』中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度 (20 %) 授業内課題 (20 %) その他【 演習 】 (60 %)		
特記すべき事項	「担当者は介護福祉士として23年の実務経験を有しています」 介護福祉士受験資格必修		
質問・相談等の受付			

科目	終末期支援	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	中島 航	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する内容とする。 本授業は福祉学科の学習成果(7)に対応する。		
到達目標	人生の最終段階において、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を身につけることができる。人生の最終段階にある人と家族の心理過程を理解し、心に寄り添う姿勢を身につけることができる。		
学習成果の評価基準	授業で学んだ知識、技術を理解できているかどうか定期的に達成度到達テスト(小テスト)を実施し評価する。また思考力の確認のため定期的にレポート記述も実施する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	人生の最終段階とは～死の定義～	自らの死生観について考えておく	
2.	尊厳死～意思決定支援とは～	尊厳死とは何かを考えておく	
3.	視覚教材を用いて生命倫理の視点から死を考える～尊厳の保持とは～	尊厳死について自分の考えを整理する	
4.	人生の最終段階におけるケアの役割～生きることを支える介護～	リビングウィルについて復習する	
5.	人生の最終段階における全人的ケアとチームケア	ターミナル期における介護福祉士の役割を復習する	
6.	事例で学ぶ全人的苦痛	スピリチュアルペインについて復習する	
7.	視覚教材を用いたデスエデュケーション 1 死生観	自らの死生観を振り返る	
8.	視覚教材を用いたデスエデュケーション 2 弔うことの意味	弔うことの意味を考える	
9.	終末期の経過に沿った支援 1 アセスメントとチームケア	テキストを復習する	
10.	終末期の経過に沿った支援 2 生活支援技術とチームケア	安楽の技法について復習する	
11.	終末期の経過に沿った支援 3 心理過程と心理的支援	死の受容過程について復習する	
12.	死後の身体的変化と死後のケア	死後変化について復習する	
13.	人生の最終段階にある人を支える家族のケア 1 グリーフケアの理論	グリーフケアについて復習する	
14.	人生の最終段階にある人を支える家族のケア 2 グリーフケアの実際	前回の感想をまとめておく	
15.	まとめ	ノートを整理しておく	
教科書	最新介護福祉士養成講座 7 『生活支援技術』 中央法規 最新介護福祉士養成講座 11 『こころとからだのしくみ』 中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	授業態度(20%)、達成度確認テスト(40%)、定期レポート(40%)		
特記すべき事項	介護福祉士受験資格必修 実務経験：担当者は高齢者福祉施設における看取り支援について11年の実務経験を有しています		
質問・相談等の受付			

科 目	仏教の死生観	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	中島 航	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	人生の最終段階における本人の支援とその家族の支援に関わる上で、介護福祉士として理解しておきたい実践的な知識の学習と、歴史的な人間理解としての仏教を通じて死生観について考察する。またグリーフケアについても学ぶ内容。 本授業は福祉学科の学習成果(6)に対応する。		
到達目標	仏教を基本とした死生観を学び、人生の最終段階における本人や家族の支援を学ぶことで、介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職として人生の最終段階における支援に必要な態度と死生観を身につけることができる。		
学習成果の 評価基準	学んだ内容や感想を定期的にレポート記述して提出し、評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	死生観とは	「授業要覧」を読む	
2 .	人生の最終段階について(1) ビデオ学習	配布資料を読む	
3 .	人生の最終段階について(2) 基本的な理解	配布資料を読む	
4 .	人生の最終段階について(3) 今日の課題	配布資料を読む	
5 .	人生の最終段階に関わる介護福祉士としての役割(1) 事例紹介	配布資料を読む	
6 .	人生の最終段階に関わる介護福祉士としての役割(2) 事例に学ぶ	配布資料を読む	
7 .	人生の最終段階に関わる介護福祉士としての役割(3) 介護福祉士としての役割と事例検討	配布資料を読む	
8 .	釈尊の四門出遊 お釈迦様の言葉に生老病死を学ぶ	配布資料を読む	
9 .	仏教の歴史における人生の最終段階におけるケア 仏教福祉の歴史について	配布資料を読む	
10 .	仏教における死生観を学ぶ(1) 仏教の死生観	配布資料を読む	
11 .	仏教における死生観を学ぶ(2) 親鸞聖人の死生観	配布資料を読む	
12 .	人生の最終段階における人の支援	配布資料を読む	
13 .	家族支援・グリーフケア(1) 人生の最終段階における人の家族支援について	配布資料を読む	
14 .	家族支援・グリーフケア(2) 遺族との関わりについて(直後～その後)	配布資料を読む	
15 .	まとめ	振り返り	
教科書	随時、プリント等を配布する。		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度(50%)、レポート記述(50%)		
特記すべき 事項	介護福祉士受験資格必修 実務経験：担当者は高齢者福祉施設における看取り支援について11年の実務経験を有しています		
質問・相談等 の受付			

科目	介護過程	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	中島 航	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開を理解するとともに、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を学ぶ。 本授業は福祉学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	事例を用いてアセスメントや介護計画立案等を練習しすることで介護過程の実践展開を学び、さらには各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力、判断力及び思考力を身につける。		
学習成果の評価基準	授業内容における作業や活動を積極的に行っているかどうかで評価する。 また授業で学んだ内容を理解できているか、適宜、小テストを行い評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	介護過程の実践的展開とは	テキストを読む	
2.	事例による介護過程の実践展開(1) アセスメントとは(復習)	テキストを読む	
3.	事例による介護過程の実践展開(2) アセスメントの練習 事例 内容の理解	前回の復習	
4.	事例による介護過程の実践展開(3) アセスメントの練習 事例 内容を理解と情報のまとめ	前回の復習	
5.	事例による介護過程の実践展開(4) アセスメントの練習 事例 の課題抽出	前回の復習	
6.	介護計画の立案について(1) 介護計画とは	テキストを読む	
7.	介護計画の立案について(2) 介護目標の設定	テキストを読む	
8.	介護計画の立案について(3) 事例 を用いて介護計画立案の練習	テキストを読む	
9.	介護の実施について(1) 介護の実施とは	テキストを読む	
10.	介護の実践について(2) 介護における留意点など	テキストを読む	
11.	評価について	テキストを読む	
12.	事例による介護過程の実践的展開を行う(1) 事例 を用いてアセスメントの練習	アセスメントの復習	
13.	事例による介護過程の実践的展開を行う(2) 事例 を用いて介護計画の立案	アセスメントの復習	
14.	事例による介護過程の実践的展開を行う(3) 事例 を用いて介護の実施を考える	介護計画の復習	
15.	事例による介護過程の実践的展開を行う(4) 事例 を用いて評価と評価方法について考える	介護計画の復習	
教科書	テキスト：最新 介護福祉士養成講座 9 『介護過程』中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	授業態度(60%)、小テスト(40%)		
特記すべき事項	介護福祉士受験資格必修 高齢者福祉施設において生活相談員として11年の実務経験を有する。		
質問・相談等の受付			

科 目	介護過程	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	塚本真由美	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につなげる。 本授業は福祉学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	介護実習における実践経験を活かし、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を身につける。 事例研究の意義と展開法を学び身につける。 個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開し、事例研究の形にすることができる。 事例研究した内容を報告し、共有して学びを広げ、深める。		
学習成果の評価基準	事例研究の計画性や完成度を報告状況により確認を行う。また、授業内課題、発表によって達成目標に明示している内容を表評価する。「事例研究」への取り組み姿勢(聞く、話す、読む、書く)を授業態度の評価とする。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	介護の事例研究の意義・課題	個別介護過程の展開について復習しておく	
2 .	利用者のアセスメントから課題に向けた実施活動の再確認	「サマリー」様式で事例の概要を確認する	
3 .	事例研究の展開法(ケーススタディ)	先行研究をもとに確認する	
4 .	テーマの設定法、サブテーマ、はじめに	各自、テーマ、サブテーマを考えておく	
5 .	事例の紹介	介護実習における対象者の情報を指定記録にまとめておく	
6 .	個別介護計画の展開	介護実習における個別介護計画の展開を指定記録にまとめておく	
7 .	介護計画の実践・評価の記録表現法、全体の評価法	介護実習における個別介護計画の展開を指定記録にまとめておく	
8 .	考察法	テーマにあった参考文献を熟読しておく	
9 .	おわりに、参考文献の記録法	テーマにあった参考文献を熟読しておく	
10 .	事例研究の発表の準備	事例研究発表の練習をしておく	
11 .	グループ1の発表と考察	発表者の事例研究を読み学びを深める	
12 .	グループ2の発表と考察	発表者の事例研究を読み学びを深める	
13 .	グループ3の発表と考察	発表者の事例研究を読み学びを深める	
14 .	グループ4の発表と考察	発表者の事例研究を読み学びを深める	
15 .	まとめ	発表後の原稿の修正を行う	
教科書	最新介護福祉士養成講座9『介護過程』 中央法規 『九州大谷短期大学福祉学科介護実習マニュアル』 『学生のための事例研究』		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度 (20 %) 授業内課題 (40 %) 授業内発表 (20 %) その他【個人情報に関する資料の管理、事例研究の完成度】(20 %)		
特記すべき事項	総合病院において看護師・保健師として6年の実務経験を有する 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	研究室及びGメールにて受付		

科目	介護過程	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	青柳早地子・大石英雄・高口一敏・佐藤美誉子・角 留美子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	様々な介護現場における介護計画の立案や展開について、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う、介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する内容とする。 本授業は福祉学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	各種介護サービスにおける個別介護計画の立案や展開方法を通して、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を身につける。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる達成度を測るために、単元ごとに試験を実施し評価する。また、授業態度をもって評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	身体障害者の個別介護計画 作成方法について	介護計画の作成を考えてくる	
2.	身体障害者の個別介護計画 事例展開について	事例を通じた介護展開を復習する	
3.	身体障害者の個別介護計画 事例の展開法について(チームアプローチ)	事例を通じた介護展開を復習する	
4.	知的障害の基礎的理解について	知的障害の基礎的知識を予習しておく	
5.	知的障害者の生活について	施設の現状と課題について復習する	
6.	知的障害者の支援について(チームアプローチ)	関わり方や支援ツールについて復習する	
7.	在宅サービスの現状とアセスメント	在宅サービスの利用者の状況を復習する	
8.	在宅サービスの事例に基づいた介護計画書 作成演習	介護計画の作成を考えてくる	
9.	在宅サービスの事例に基づいた介護計画書 (チームアプローチ) まとめと評価	介護計画を基に支援方法について復習しておく	
10.	高齢者の施設生活の現状と課題	認知症の介護過程について復習しておく	
11.	心身の情報収集とアセスメントを学ぶ	介護計画の作成について考えておく	
12.	誰が見ても分かりやすく実施しやすい介護計画書策定(チームアプローチ)	介護計画の作成について復習しておく	
13.	居宅生活者の個別介護計画作成法	訪問介護を要する方について考えておく	
14.	居宅生活者の個別支援計画事例の展開法	訪問介護の介護計画を立てておく	
15.	居宅生活者の個別支援計画事例の展開法 (チームアプローチ)	訪問介護の介護計画を振り返る	
教科書	最新介護福祉士養成講座9『介護過程』中央法規		
参考書	必要に応じてプリントを配布する。		
学習成果の評価方法	受講態度(20%) 授業内課題(80%) 自由記述(到達目標の確認については、授業内でのレポートや口答状況で確認していく)		
特記すべき事項	大石(障がい者支援施設32年)、佐藤(特養3年・老健2年・小規模多機能18年)、青柳(特養8年・デイ相談員3年・GHケアマネ6年)、角(老健21年)、高口(老健8,5年・居宅0,5年・特養18年)予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問・相談は、授業終了後に随時対応します。		

科目	介護総合演習		開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	塚本真由美		授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげる。 ・これまでの実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う。 ・本授業は福祉学科の学習成果(2)に対応する。 			
到達目標	これまでの実習、介護総合演習 ・ の上に、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を身につける。 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成することができる。 次期実習につなぐ個別計画の立案・展開につなげることができる。			
学習成果の評価基準	介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力が身につけていることを測るために、授業内課題、グループ学習（プレゼンテーション、資料作成等）、取り組む姿勢（聞く、話す、読む、書く）となる受講態度にて評価とする。			
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習 予習・復習	
1.	介護実習 - 3、 についてのオリエンテーション	知識と技術の統合	介護実習 - 2の実習課題、 3の実習施設、通学可能施設、交通手段などの確認を行っておく	
2.	介護実習 - 3、 についてのオリエンテーション	ケースを持つことの責任	介護実習 - 2の実習課題、 3の実習施設、通学可能施設、交通手段などの確認を行っておく	
3.	介護実習 - 3の実習準備（施設理解）		介護実習 - 2での課題をもとに 介護実習 - 3の目標を明確化してくる	
4.	介護実習 - 3の実習準備(健康管理)		実習施設の配置表、記録類の確認をしてくる	
5.	カンファレンスの持ち方		介護実習 1 - 3の目標を確認してくる（実習マニュアル）	
6.	リーダーとメンバーの役割		チーム力を高めるための方法を考えてくる	
7.	利用者理解のためのサマリー記録	様式の理解	サマリーに関連する情報を整理する（実習マニュアル）	
8.	利用者理解のためのサマリー記録	様式の活用	サマリーに関連する情報を整理する（実習マニュアル）	
9.	質の高い介護の実践やエビデンスの構築に向けて、実習日誌の考え方、記録法		各種記録様式の活用の仕方を復習してくる	
10.	介護実習 - 3の振り返りと課題		介護実習 1 - 3の課題を明確化してくる	
11.	ケース記録（サマリー・介護計画記録）の振り返り		介護実習 - 3の課題の改善に向けた取り組みを考えてくる	
12.	介護実習 の準備として介護計画の立案法		介護計画立案について復習してくる	
13.	情報収集の仕方と社会資源の活用法		事前に通学可能施設、交通手段などの確認を行っておく	
14.	次期実習の準備		実習施設の配置表の確認	
15.	個別介護計画の立案の指導		介護実習 の個人票の下書きをしてくる	
教科書	最新介護福祉士養成講座10 『介護総合演習・介護実習』中央法規 『九州大谷短期大学福祉学科介護実習マニュアル』			
参考書				
学習成果の評価方法	受講態度（ 40 %） 授業内課題（ 40 %） その他 グループ学習（ 20 %）			
特記すべき事項	総合病院において看護師・保健師として6年の実務経験を有する 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。			
質問・相談等の受付	研究室及びGメールにて受付			

科 目	介護総合演習	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	塚本真由美	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	これまでの実習における個別の情報収集・介護計画の立案及び展開法の習得を通して、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を学ぶ。 本授業は福祉学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	これまでの実習の上に、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を身につける。 個別の利用者を担当し、計画を立て実施することの責任・義務について理解することができる。 チームワークにおける個人の役割について理解することができる。 介護の社会資源を通して、地域の介護サービスの連動性を理解することができる。		
学習成果の評価基準	達成目標に明示している介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力が身につけていることを測るために、授業内課題、グループ学習(プレゼンテーション、資料作成等)、取り組む姿勢(聞く、話す、読む、書く)となる受講態度にて評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	次期実習の準備 倫理的配慮について	細菌検査・健康診断、記録類の確認をしておく(実習マニュアル)	
2 .	個別介護計画の指導	介護実習準備書類の確認をしておく(実習マニュアル)	
3 .	個人の情報収集法について	介護実習における個人情報保護の内容について調べておく	
4 .	個別介護とチームワーク	保健・医療・福祉関連者とのチームの連携についてまとめておく	
5 .	介護チームと医療関係者	保健・医療・福祉関連者とのチームの連携についてまとめておく	
6 .	ICFに基づく他専門職との連携	対象利用者の情報をサマリー様式に整理しておく	
7 .	介護の社会資源の再確認	介護の社会資源について復習しておく	
8 .	個別介護計画の振り返り	対象利用者の個別介護計画の実施状況を指定記録にまとめておく(実習マニュアル)	
9 .	介護実習 の振り返りを行い自己の課題を明確化、専門職としての態度を考える	介護実習 の自己評価	
10 .	利用者のニーズに応えること	利用者ニーズについて考えをまとめておく	
11 .	介護の目標とQOL	利用者の自立支援と尊厳について考えておく	
12 .	介護福祉士の役割について	終末期支援について学習しておく	
13 .	介護におけるリハビリについて	ICFのアセスメント6項目を学習しておく	
14 .	利用者が自身の力ですることの意味	現有能力の引き出し方について考えをまとめる	
15 .	介護実習と学生の成長、介護実践の科学的探求	社会人としての自己の課題を考える	
教科書	最新介護福祉士養成講座10 『介護総合演習・介護実習』 中央法規 『九州大谷短期大学福祉学科介護実習マニュアル』		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度 (40 %) 授業内課題 (40 %) その他 グループ学習 (20 %)		
特記すべき事項	総合病院において看護師・保健師として6年の実務経験を有する各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	研究室及びGメールにて受付		

科 目	介護実習 - 3	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	村上有希・中村秀一・塚本真由美・中島 航	授業形態 単位数	実習 3単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。 ・多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。 ・本授業は福祉学科の学習成果(2)に対応する。 		
到達目標	実習 - 1、 - 2、介護総合演習、及び各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる。		
学習成果の評価基準	・日常生活の「場」の特性と利用者支援について自身で考察することができ、理解したことから展開を考えたことを評価する		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
	<p>上記到達目標・学習成果を修めるために下記の目標を掲げ実施する</p> <p>(実習目標) 日常生活の「場」の特性と利用者支援について理解し実施・展開できる</p> <p>(時間) 128時間</p> <p>(方法) 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障がい者支援施設 等</p> <p><学習内容></p> <p>(1)施設介護について学ぶ 介護施設で生活する人のニーズを知る。 利用者関係と利用者個人の生活について学ぶ。 介護従事者との関係における利用者個人の生活について学ぶ。 家族との関係における利用者個人の生活について学ぶ。 高齢者施設、障害者施設など、多機能の施設サービス支援体験をする。</p> <p>(2)日常生活支援対応を多角的に体験する 食事・排泄・入浴の基本体験をする。 移動・移乗でボディメカニクス体験をする。 その人の願いや希望を聞いた支援体験をする。 利用者の楽しみ・満足になる体験をする。 睡眠・休息・健康状態について学ぶ。</p> <p>(3)利用者を通して、保健・医療・福祉関係者とのチーム連携について学ぶ 健康状態を通して、医療関係者の役割を理解する。 入所・退所・経済・家族相談など支援相談員の役割を理解する。</p> <p>(4)個別介護計画の立案へ向けた情報収集とアセスメント</p>	<p>実習に臨み健康管理をしておく。実習にて使用する記録用紙について確認しておく。具体的には以下のものとする。</p> <p>介護実習 - 3 ・実習日誌 ・施設の概要 ・プロセスレコード ・利用者サマリー ・介護計画記録 ・カンファレンス記録</p>	
教科書	テキスト：最新介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』中央法規 『九州大谷短期大学福祉学科介護実習マニュアル』		
参考書			
学習成果の評価方法	実習態度 40%、レポート 10%、実習記録 40%、【実習評価表】10% (健康管理並びに記録物の提出状況)		
特記すべき事項	村上:担当者は介護福祉士として5.5年の実務経験を有する 介護福祉士受験資格必修		
質問・相談等の受付	メールにて随時受付 (murakami@kyushuotani.online)		

科 目	介護実習	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	村上有希・中村秀一・塚本真由美・中島 航	授業形態 単位数	実習 4単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。 ・多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。 ・対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。 ・本授業は福祉学科の学習成果(2)に対応する。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 - 1、 - 2、 - 3、介護総合演習、及び各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・生活している個人を関係する環境を含めて理解し、実践することでよりよく生きる生活支援へ向けた対応を深く考えられるかを評価する 		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
	<p>上記到達目標・学習成果を修めるために下記の目標を掲げ実施する</p> <p>(実習目標) 生活している個人を関係する環境を含めて理解し、利用者の生きることへの戸惑いを受けとめた、よりよく生きる生活支援へ向けた対応を学ぶ</p> <p>(時間) 176時間</p> <p>(方法) 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障がい者支援施設等</p> <p><学習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護実習を基に、 (1) ケース担当制とすることの責任について学ぶ。 利用者を担当することの施設・利用者・家族における責任について学ぶ。 利用者及びその関係者について理解し、チームとしての行動体験とする (2) 個別の介護計画の立案法・展開法を学ぶ。 利用者の情報収集の手段を学び、利用者理解を深める。 施設職員の組織を理解し、介護チームの一員としての連絡・報告の大切さを学ぶ。 利用者の介護課題を明確にして、計画を記録にして表現、指導者に提出する。 計画の指導を確認の上、利用者の状態に合わせ計画を実践・評価する。 ケースへの多種職のかかわりから、各々の職種の役割を学ぶ。 介護保険及び障害者総合支援法によるサービス利用の実際を学ぶ。 (3) 地域における福祉事業所の役割について学ぶ。 利用者の生活の質を高めるための施設の取り組みについて理解する。 施設が地域に果たす役割について学ぶ。 介護保険法及び障害者総合支援法によるサービス利用における保健、医療、福祉関係者とのチームの連携について学ぶ。 		<p>実習に臨み健康管理をしておく。実習にて使用する記録用紙について確認しておく。具体的には以下のものとする。</p> <p>介護実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌 ・施設の概要 ・プロセスレコード ・利用者サマリー ・個別介護計画記録 ・カンファレンス記録
教科書	テキスト：最新介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』中央法規『九州大谷短期大学福祉学科介護実習マニュアル』		
参考書			
学習成果の評価方法	実習態度 40%、レポート 10%、実習記録 40% 【実習評価表】 10% (健康管理並びに記録物の提出状況)		
特記すべき事項	村上:担当者は介護福祉士として5.5年の実務経験を有する 介護福祉士受験資格必修		
質問・相談等の受付	メールにて随時受付 (murakami@kyushuotani.online)		

科目	認知症を持つ人の支援	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	川島豊輝	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながる内容とする。また、認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する内容とする。更には、認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容本授業は福祉学科の学習成果(3)に対応する。		
到達目標	認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援・身体的な支援・経済的支援(制度)について基礎的な知識を身につけることができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明記している心理・社会的な支援について理解達成度を図るために、到達度確認テスト(レポート)を実施し評価する。 心理機能が生活に及ぼす影響や、自立した生活の継続についての理解度達成度を図るために、授業内課題や小テストを実施し評価する。 授業での積極的なグループ活動及び演習取り組みを「受講態度」の評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	認知症の人の体験の理解、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践を考える	認知症について学習しておく	
2.	認知症ケアの歴史を踏まえ、認知症の人の意思決定支援の重要性を理解する	認知症ケアの歴史について復習しておく	
3.	認知症の診断・原因疾患と治療を踏まえ、医療と介護の連携について理解する	認知症の原因疾患について学習しておく	
4.	認知症に類似する疾患・認知症予防を踏まえ、介護職としての専門性を理解する	認知症に類似する疾患について学習しておく	
5.	認知症の中核症状を踏まえ、アセスメントを行い基本的なかわり方を理解する	中核症状と基本的なかわり方について学習しておく	
6.	認知症の人の行動・心理症状を踏まえ、アセスメントを行い基本的なかわり方を理解する	認知症の人の心理症状を学習しておく	
7.	認知症の人の心理的理解を踏まえ、アセスメントを行いポジティブケアの必要性を理解する	認知症の人への基本的なかわり方について復習しておく	
8.	BPSDまたはBPDに対する基本的理解を踏まえ、アセスメントを行い非薬物的なかわり方について理解する	BPSDについて復習しておく	
9.	認知機能の変化が生活に及ぼす影響を踏まえ、自立支援・重度化防止について理解する	認知機能の変化が生活に及ぼす影響について学習しておく	
10.	認知症の進行ステージに応じた支援の在り方を理解する 心身の変化	認知症の段階に応じた心身の変化について学習しておく	
11.	認知症の進行ステージに応じた支援の在り方を理解する 心理症状	認知症の段階に応じた心身の変化と心理症状について学習しておく	
12.	地域におけるサポート体制及びチームアプローチの基本的な方法を理解する	認知症におけるサポート体制について学習しておく	
13.	認知症を持つ人の介護家族への支援の在り方を踏まえ、介護職の専門性を理解する	認知症の人を支える家族の課題について学習しておく	
14.	認知症に関する制度、関係機関などの理解を踏まえ、介護職の専門性を理解する	認知症に関する制度、関係機関について学習しておく	
15.	認知症の人の意思決定に基づく適切なケアの理解のため、多職種連携と協働の必要性を理解する	多職種連携と協働の必要性について学習しておく	
教科書	最新介護福祉士養成講座13『認知症の理解』中央法規		
参考書	なし。		
学習成果の評価方法	受講態度(10%) 小テスト(10%) 授業内課題(20%) 定期試験(50%) 授業内発表(10%)		
特記すべき事項	担当者は、福岡県認知症介護指導者・主任介護支援専門員として12年の実務経験を有しています。 介護福祉士受験資格必修		
質問・相談等の受付	授業時または、授業後に受付ます。		

科目	障害の医学的基礎	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	中村京子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	障害の概念や制度の基礎的知識を踏まえ、障害の医学的・心理的側面から心身の影響や心理的变化を理解する。また障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができる学習とする。 本授業は福祉学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	・ 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的な知識を習得し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を身につける。		
学習成果の評価基準	定期試験及び授業中の態度(遅刻・居眠り含む)授業時の課題等にて評価する。(仮に授業の課題がなかったり少なかったりした場合にはその分の評価の割合は定期試験に加算するものとする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	障害の概念・障害の特性に応じた制度(社会モデル・医学モデル・という概念)ICFでの障害のとらえ方	障害とは何か、テキストを読み学習しておく	
2.	障害者の概数・障害者の定義	障害者の数と定義、テキストを読み学習しておく	
3.	障害のある人の医学的・心理的側面の理解(障害のある人の心理・障害の受容または心理的な変化)心理的支援の方法	障害のある人の心理などテキストを読み学習しておく	
4.	身体障害(1)体不自由(運動機能障害)概念・種類・原因の理解 身体的特性の理解、心理的側面の理解特性に応じたQOLを高める支援	肢体運動機能の原因と特性を学習しておく	
5.	身体障害(2)視覚障害の概念・種類・原因の理解 身体的特性の理解、心理的側面の理解、特性に応じたQOLを高める支援	視覚障害の原因と特性を学習しておく	
6.	身体障害(3)聴覚障害・言語障害・重複障害の概念・種類・原因の理解 身体的特性の理解、心理的側面の理解、特性に応じたQOLを高める支援	聴覚障害・言語・重複の原因と特性を学習しておく	
7.	身体障害(4)内部障害(心臓機能・呼吸器機能)概念・種類・原因の理解 身体的特性の理解、心理的側面の理解、特性に応じたQOLを高める支援	心臓・呼吸機能障害の原因と特性を学習しておく	
8.	身体障害(5)内部障害(腎臓・膀胱・直腸機能)概念・種類・原因の理解 身体的特性の理解、心理的側面の理解特性に応じたQOLを高める支援	腎臓・膀胱・直腸の原因と特性を学習しておく	
9.	身体障害(6)内部障害(小腸機能・免疫機能)概念・種類・原因の理解 身体的特性の理解、心理的側面の理解、特性に応じたQOLを高める支援	小腸・免疫機能の原因と特性を学習しておく	
10.	身体障害(7)内部障害(肝臓機能)及び難病概念・種類・原因の理解 身体的特性の理解、心理的側面の理解、特性に応じたQOLを高める支援	肝臓機能と難病の原因と特性を学習しておく	
11.	重症心身障害 概念 原因と分類、特性の理解 身体的特性の理解 心理的側面の理解、特性に応じたQOLを高める支援	重症心身障害児の特性を学習しておく	
12.	知的障害 概念 原因と種類、特性の理解 特性に応じた支援、ライフステージに応じたかわり方	知的障害の特性を学習しておく	
13.	精神障害 概念 原因と種類、特性の理解 心理的側面の理解、特性に応じたQOLを高める支援	精神障害の特性を学習しておく	
14.	高次脳機能障害 概念 原因、特性の理解 心理的側面の理解、特性に応じたQOLを高める支援	高次脳機能障害の特性を学習しておく	
15.	発達障害 障害ごとの特性の理解 生活特性と生活支援、家族への支援、支援機関	発達障害の特性を学習しておく	
教科書			
参考書	テキスト： 最新・介護福祉士養成講座14『障害の理解』 中央法規		
学習成果の評価方法	受講態度15% 授業内課題15% 定期試験70%		
特記すべき事項	看護師・保健師として5年の実務経験を有する 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付			

科目	障害のある人の支援	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	村上有希	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	障害の基礎的な理解を学習し、障害の特性に応じた理念の基礎的な知識を学ぶ。また地域で支えるためのサポート体制や多職種連携・協働による支援や、家族支援についても学習する。 本授業は福祉学科の学習成果(4)に対応する。		
到達目標	認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について、介護福祉士として基礎的な知識を身につける。		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について考えることができるかを評価する 地域で自立した生活を継続するために必要支援についての知識の理解度を小テストで確認し、評価する 		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	障害のとらえ方	教科書第1章第1節1を読んでおく	
2.	ICIDHからICFへの変遷について	教科書第1章第1節2を読んでおく	
3.	障害のある人の概数や定義、現状について	教科書第1章第1節3・4を読んでおく	
4.	障害のある人の基本理念 ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン等	教科書第1章第2節1・2・3を読んでおく	
5.	障害のある人の基本理念 エンパワメント、ストレングス、アドボガシー等	教科書第1章第2節4・5・6・7・8を読んでおく	
6.	障害者福祉に関連する制度	教科書第1章第3節を読んでおく	
7.	障害者福祉制度と介護保険制度	教科書第1章第4節を読んでおく	
8.	地域サポート体制	教科書第4章第1節1・2を読んでおく	
9.	地域における連携と協働について	教科書第4章第1節3・4・5・6を読んでおく	
10.	チームアプローチとは	教科書第4章第2節1・2を読んでおく	
11.	チームアプローチの課題と工夫	教科書第4章第2節3・4・5を読んでおく	
12.	家族への支援 障害のある人を支える家族の理解	教科書第5章第1節1・2を読んでおく	
13.	家族への支援 障害のある人の家族への支援と課題	教科書第5章を読んでおく	
14.	家族の介護力の評価と介護負担の軽減	教科書第6章を読んでおく	
15.	まとめ	これまでの授業内容を振り返っておく	
教科書	テキスト：最新介護福祉士養成講座14『障害の理解』中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度 50%、小テスト50% 小テストは、その都度解説をし、フィードバックをする。		
特記すべき事項	介護福祉士受験資格必修 担当者は介護福祉士として5.5年の実務経験を有する。		
質問・相談等の受付	メールにて随時受付 (murakami@kyushuotani.online)		

科目	こころとからだのしくみ	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	中村京子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	生活支援に必要な基礎的な知識として、休息・睡眠に関するこころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。また人生の最終段階のケアに関する支援を行う際に必要となるこころとからだのしくみの基礎を学ぶ。 本授業は福祉学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階について理解し、対象者を統合的に捉える。 ・休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみを理解し、機能の低下や障害が休息・睡眠に及ぼす影響や生活場面における変化の気づきができるようになる。 ・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識が理解できる。		
学習成果の評価基準	定期試験及び授業中の態度(遅刻・居眠り含む)授業時の課題等にて評価する。(仮に授業の課題がなかったり、少なかったりした場合にはその分の評価の割合は定期試験に加算するものとする)		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	休息・睡眠のしくみと意義	身近なところで休息の意義を考えておく	
2.	睡眠時間の変化について・サーカディアンリズムについて・レム睡眠とノンレム睡眠について	自分の睡眠のパターンを考えておく	
3.	睡眠の質を高める環境・睡眠と体温の変化、睡眠とホルモン分泌の変化	睡眠の質を高める環境を考える	
4.	睡眠の質を高める生活習慣とは	睡眠の質を高める生活習慣を考える	
5.	機能の低下・障害が休息・睡眠に及ぼす影響 (加齢による睡眠の変化)	機能低下が睡眠に及ぼす影響を考える	
6.	機能の低下・障害が休息・睡眠に及ぼす影響 (心身機能変化が睡眠に及ぼす影響)	睡眠に関連したこころのしくみについて学習しておく	
7.	睡眠障害(不眠症・過眠症・その他)	睡眠障害について学習しておく	
8.	睡眠不足が及ぼす生活への影響(生活への支障・生活習慣病のリスク・心の問題)	睡眠不足に関するアセスメントのポイントを学習しておく	
9.	睡眠での観察のポイントを理解し、生活場面における変化の気づきができる	睡眠における観察ポイントを学習しておく	
10.	睡眠での医療職との連携のポイント、緊急対応が必用な例	個別に応じた安眠を促す支援について考えておく	
11.	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方及び家族の受け止め方の理解と支援	テキスト「死のとらえ方」を読む	
12.	「死」に対するこころの理解と終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響	テキスト「死に対する心の変化」を読んでおく	
13.	終末期から危篤状態、死後のからだの理解	危篤状態と死後について学習しておく	
14.	終末期における医療職との連携及び家族への支援	チームケアについて学習しておく	
15.	グループワーク「身近な人の死と自分自身が向き合う時間」	話す内容をまとめておく	
教科書	テキスト：最新介護福祉士養成講座 11 『こころとからだのしくみ』 中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度15%、授業内課題10%、定期試験70%、授業内発表5%		
特記すべき事項	看護師・保健師として5年の実務経験を有する 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付			

科 目	医療的ケア	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	塚本真由美・長谷川孝子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	経管栄養について根拠に基づく手順が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解する内容とする。また、安全な喀痰吸引等の実施をするため、確実な手順を習得する。 本授業は福祉学科の学習成果(4)に対応する。		
到達目標	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得できる。 医療的ケアの基礎知識として、安全性、感染症予防、健康状態について理解する。 消化器系のしくみと役割・機能を理解し、安全に経管栄養が提供できることの重要性について理解する。 喀痰吸引、経管栄養が安全に実施できる。		
学習成果の評価基準	達成目標に明示している ~ の達成状況を測るために小テスト及び定期試験を実施し評価する。また、「医療的ケア」への取り組み姿勢（聞く、話す、読む、書く）を授業評価の態度とする。短期集中演習において演習の合格を持って科目履修とする。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
	<p>1. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論 (1)消化器のしくみと働き (2)消化・吸収とよくある消化器の症状</p> <p>2. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論 (3)経管栄養法とは (4)注入する内容に関する知識</p> <p>3. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論 (5)経管栄養実施上の留意点</p> <p>4. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論 (6)成人と小児の経管栄養の違い</p> <p>5. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論 (7)経管栄養に関する感染と予防 (8)経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</p> <p>6. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論 (9)経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認</p> <p>7. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論 (10)急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>8. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説 (1)経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持</p> <p>9. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説 (2)経管栄養の技術と留意点 経鼻経管栄養</p> <p>10. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論 (2)経管栄養の技術と留意点 胃ろう・腸ろう経管栄養</p> <p>11. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論 (3)経管栄養に必要なケア (4)報告及び記録</p> <p>12. 根拠に基づく実施手順方法の確認 医療職との連携のもとで医療的ケアが安全・適切に実施できる</p> <p>13. 集中講義 : 根拠の基づく実施手順の確認 (口腔・鼻腔喀痰吸引理解度チェック)</p> <p>14. 集中講義 : 根拠の基づく実施手順の確認 (気管内吸引理解度チェック)</p> <p>15. 集中講義 : 根拠の基づく実施手順の確認 (経鼻胃チューブ経管栄養理解度チェック)</p> <p>16. 集中講義 : 根拠の基づく実施手順の確認 (胃ろう・腸ろ経管栄養理解度チェック)</p>	<p>1. 消化器の解剖生理について調べてくる</p> <p>2. 経管栄養が必要な状態について調べてくる</p> <p>3. 経管栄養実施上の留意点について調べてくる</p> <p>4. 成人と小児の経管栄養の違いについて学習しておく</p> <p>5. 経管栄養に関する感染について調べてくる</p> <p>6. 経管栄養時に想定されるトラブルについて調べてくる</p> <p>7. 急変時の反応及び起こりうる事故について学習しておく</p> <p>8. 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみについて調べてくる</p> <p>9. 経管栄養の実実施手順を調べてくる</p> <p>10. 根拠に基づく経管栄養の実施と留意点について調べてくる</p> <p>11. 消化機能を促進するケアについて調べてくる</p> <p>12. 全体を復習してくる</p> <p>13. 根拠に基づく喀痰吸引実施について復習してくる</p> <p>14. 根拠に基づく喀痰吸引の実施について復習してくる</p> <p>15. 根拠に基づく経管栄養実施について復習してくる</p> <p>16. 根拠に基づく経管栄養実施について復習してくる</p>	
教科書	最新介護福祉士養成講座15『医療的ケア』 中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度 (10 %) 小テスト (20 %) 定期試験 (70 %) 短期集中演習において演習の合格を持って科目履修とする。		
特記すべき事項	総合病院において看護師・保健師として6年の実務経験を有する各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	研究室及びGメールにて受付		

科目	地域福祉論	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	中村秀一・中島 航	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	全ての住民が住み慣れた地域で安心安全の生活をするためには、個々のニーズの充足は重要なことである。このニーズを検証しながら地域社会に必要なコミュニティワーク実践の基本的な考え方について講義する。 本授業は福祉学科の学習成果(7)に対応する。		
到達目標	住民の生活ニーズに基づく、コミュニティワーク実践の必要性とその考え方の基本が理解することで、相手の考えや価値観を受け止めることができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示しているコミュニティワーク実践の必要性とその考え方の基本を理解することができる達成度を測るために、授業内課題を実施し評価する。また、地域福祉イベントの企画立案、運営や授業内での積極的、誠実な発言・取組みなどの授業態度をもって評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	地域福祉とは何か 地域福祉の実践について 自助、互助、共助、公助の整理と行政福祉/民間福祉の役割	行政・民間福祉の地域福祉の役割について調べ、講義後は整理しておく	
2.	地域福祉の理念について ノーマライゼーションとインクルージョンについて	ノーマルな社会について意見をもって臨むこと。共生社会について整理すること。	
3.	2025年問題と地域共生社会について 生活支援協議体体制整備事業	居住地の協議体の存在を確認し、協議体の目的を調べておくこと。	
4.	生活支援協議体によるインフォーマルな実践事例について 実践事例を考えるグループワーク	地域包括支援センターの業務と生活支援協議体について予習し、講義後は内容を整理しておく。	
5.	社会福祉協議会の地域福祉の歴史について 戦後から今日までの社会福祉協議会の活動を学習する	社会福祉協議会の理念を調べ、講義後は活動事例から現代の役割について整理しておくこと。	
6.	社会福祉協議会の現代的な役割について 住民主体の原則と一人の不幸も見逃さない支援のあり方 地域福祉活動計画にみる社会福祉協議会の地域福祉活動	住民主体とは何かを調べ、その意味について活動事例を整理すること。	
7.	住民の生活ニーズと地域課題の把握について 民生委員・児童委員制度と実践事例	地域住民の生活ニーズの内容を考え、地域の課題であることを理解、整理すること	
8.	コミュニティワークの援助概要について 援助の体系と方法	コミュニティワークの概要を理解し、その実践を整理	
9.	地域における生活課題へのアプローチについて 住民の生活課題の特性と解決方法を考えるグループワーク	生活課題の種類と内容について考えておくこと。講義後は、特性と解決手段を整理すること	
10.	地域における災害への取組みについて 防災マップと災害避難体制とボランティア支援	居住地の防災マップを事前に閲覧しておくこと。	
11.	認知症を抱える家族への地域支援 認知症カフェによる地域支援と課題	居住地のカフェの取組みを調べておく。カフェの効果と課題を整理すること	
12.	要支援・介護高齢者への専門的な社会資源について 地域小規模多機能型施設の役割	地域の高齢者を支える社会資源について調べておく。	
13.	障がい者の居場所づくりと地域福祉 地域デイサービスの必要性と地域福祉	居住地のデイサービスの取組みを調べておく。その効果と課題を整理すること	
14.	生活困窮世帯と地域福祉 子ども食堂、地域食堂の支援と考え方について	身近な取り組み事例を探しておく。食堂の効果と課題を整理しておくこと。	
15.	住民主体のまちづくりについて 筑後地域の生活課題について取り上げ、その解決へ向けて取り組むべき内容(住民ができること)を各自プレゼンする	地域住民による支援の方法とあり方について整理しておくこと。	
教科書	随時、資料を配布します		
参考書	第2期筑後市地域福祉計画・活動計画 教員が必要に応じて準備します 第8期八女市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 教員が必要に応じて準備します		
学習成果の評価方法	授業内課題(50%)、講義内での質疑応答、課題別グループワーク、プレゼンによる理解度(50%)		
特記すべき事項	中村：福岡県社会福祉協議会勤務(昭和60年～平成13年12月) 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問・相談は、研究室で受け付けます。ただし、簡易な質問であれば、研究室に限らず随時対応します。		

科 目	地域福祉論	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	中村秀一	授業形態 単位数	1単位
授業概要	<p>地域には、高齢者の生活支援をはじめ、生活困窮に伴う子どもや高齢者の貧困問題、さらには障がいのある方への在宅支援の課題等が存在している。これらの地域福祉の対象に地域包括ケアシステムの構築をもって、行政が共生社会へ向けたコミュニティのあり方を示している。これらを受けて諸々の課題解決へ向けた方策を教示し、地域福祉とは何かを考察していく。本授業は福祉学科の学習成果(7)に対応する。</p>		
到達目標	<p>住民を主体としたインフォーマルな福祉問題への取組みの必然性を理解することができる。さらに、互助、共助、公助の均衡の重要性とそれらをコーディネートすることで福祉の問題が解消されていくことが理解できる。</p>		
学習成果の評価基準	<p>到達目標に明示している インフォーマルな福祉問題への取組みの必然性を理解することができ、それらをコーディネートすることができる達成度を測るために、授業内課題を実施し評価する。また、予習復習による理解度を図るためにも授業内での質問などの積極的授業態度をもって評価とする。</p>		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習	
		予 習 ・ 復 習	
1 .	地域で生きる高齢者のニーズと支援の方向性について 市町村高齢者福祉計画、介護保険事業計画(自助と公助、共助、互助の体制整備)	高齢者福祉計画、介護保険事業計画の目的を調べ、柱となる事項を整理すること。	
2 .	地域共生社会における地域包括ケアシステムの機能について 公助と共助、互助の体制について	地域包括ケアシステムの概要を調べておくこと。	
3 .	地域共生社会における生活支援体制整備事業協議体の役割について 互助の機運の醸成と共助の体制整備へ(小地域の支援体制づくり)	生活支援体制整備協議体の役割を事前に確認しておき、内容を整理すること。	
4 .	生活支援体制整備協議体と民生委員児童委員、社会福祉協議会との関連について	民生委員法、社会福祉法の待機福祉の推進の項目を事前に目を通しておくこと。	
5 .	在宅障がい者に対する福祉 地域における障がい者福祉の理念と市町村障害者福祉基本計画	障害者基本法による理念を確認しておくこと。	
6 .	在宅障がい者に対する福祉 在宅生活のための支援制度	障害者総合支援法による在宅支援をおさえておき、サービスを整理すること。	
7 .	在宅障がい者に対する福祉 在宅生活のための展望と課題	障がい者を取り巻く地域の役割と課題とは何かを考え、住民としての役割を整理すること。	
8 .	子ども家庭に対する福祉 子ども家庭を取り巻く生活課題について(貧困、虐待、外国籍、ひとり親家庭など)	子ども家庭を取り巻く環境について意見をもって臨み、課題となっている事項を整理すること。	
9 .	子ども家庭に対する福祉 地域における子ども家庭福祉の支援制度	子育て世帯に対する諸制度について調べ、内容を整理すること。	
10 .	子ども家庭に対する福祉 地域における子どもへの健全育成と家庭支援について(児童委員、主任児童委員の役割)	児童福祉法において児童委員の職務について調べておくこと。また、役割を総合的に把握すること。	
11 .	子ども家庭に対する福祉 次世代育成支援関連法と課題	次世代育成支援に関する法律の目的を確認し、具体的な支援制度を整理すること。	
12 .	世代やジャンルを超えた居場所づくりの必要性和その可能性を考える	高齢者福祉計画と介護保険計画の法的根拠を調べておくこと。	
13 .	外国籍住民への地域福祉の役割と課題について 外国籍住民への支援制度、機関	支援が必要だと想定される制度的種類を調べておくこと。	
14 .	防災意識の高揚と地域福祉の役割と課題について 地域住民における支援活動の組織化とフォーマル及びインフォーマル化	防災に対し住民ができることを整理しておくこと。	
15 .	これからの地域福祉のあり方と課題について	現状を踏まえて地域福祉の展望や課題を準備しておくこと。	
教科書	その都度、資料を配布します。		
参考書	必要に応じて、自治体や団体広報誌などの資料を配布する。		
学習成果の評価方法	受授業内課題(50%)、講義内での質疑応答、課題別グループワーク、プレゼンによる理解度(50%)		
特記すべき事項	中村：福岡県社会福祉協議会勤務(昭和60年～平成13年12月) 長谷川：介護支援専門員として施設で従事(平成23年12月～令和3年1月)		
質問・相談等の受付	質問・相談は、研究室で受け付けます。ただし、簡易な質問であれば、研究室に限らず随時対応します。		